

「事実」と「意見」を区別して伝える

○ 事前に視聴した動画を見て、感じたことを書き込んでください。



○ グループ内で考えを共有して、まとめたものを発表してください。

「事実」と「意見」をきちんと区別して伝えることは、円滑なコミュニケーションに欠かせない要素です。ここでは、「事実」と「意見」を区別するためのヒントを学習します。

また、「事実」を把握するために必要な数字やデータ、言葉遣いについても詳しく説明します。数字を使った説明の仕方や、感情を表す言葉の使い方、「事実」と「意見」を客観的に分けるコツを学びながら、効果的なコミュニケーションに必要なスキルを身につけましょう。

実際に起きたことが「事実」であり、その解釈が「意見」であることを理解する。

看護師にとって、「事実」と「意見」を切り分けることは重要です。エビデンスに基づく実践者として、看護師は調査や資料に基づいて、「事実」と「意見」の違いを認識することが不可欠です。

「事実」は客観的であり、真実であることを証明することができるのでに対し、「意見」は主観的であり、解釈の自由があります。患者をケアし、意思決定を行う際、看護師は情報が「事実」に基づき、検証されていることを確認することで、個人的なバイアスに影響されることを避ける必要があります。

患者のために最善の決断を下すために、看護師は何が「事実」で何が「意見」なのかを見極める鋭い目を持たなければなりません。患者に対して可能な限り最善のケアをするために、看護師は、「事実」に基づく情報と「意見」に基づく解釈とを区別する公平な目を養っていかなければなりません。



1. カーテンが開いている
2. 部屋が眩しい
3. テーブルが汚い



グループ内で意見を交換して、「事実」なのか「意見」なのかを話し合い、発表しましょう。

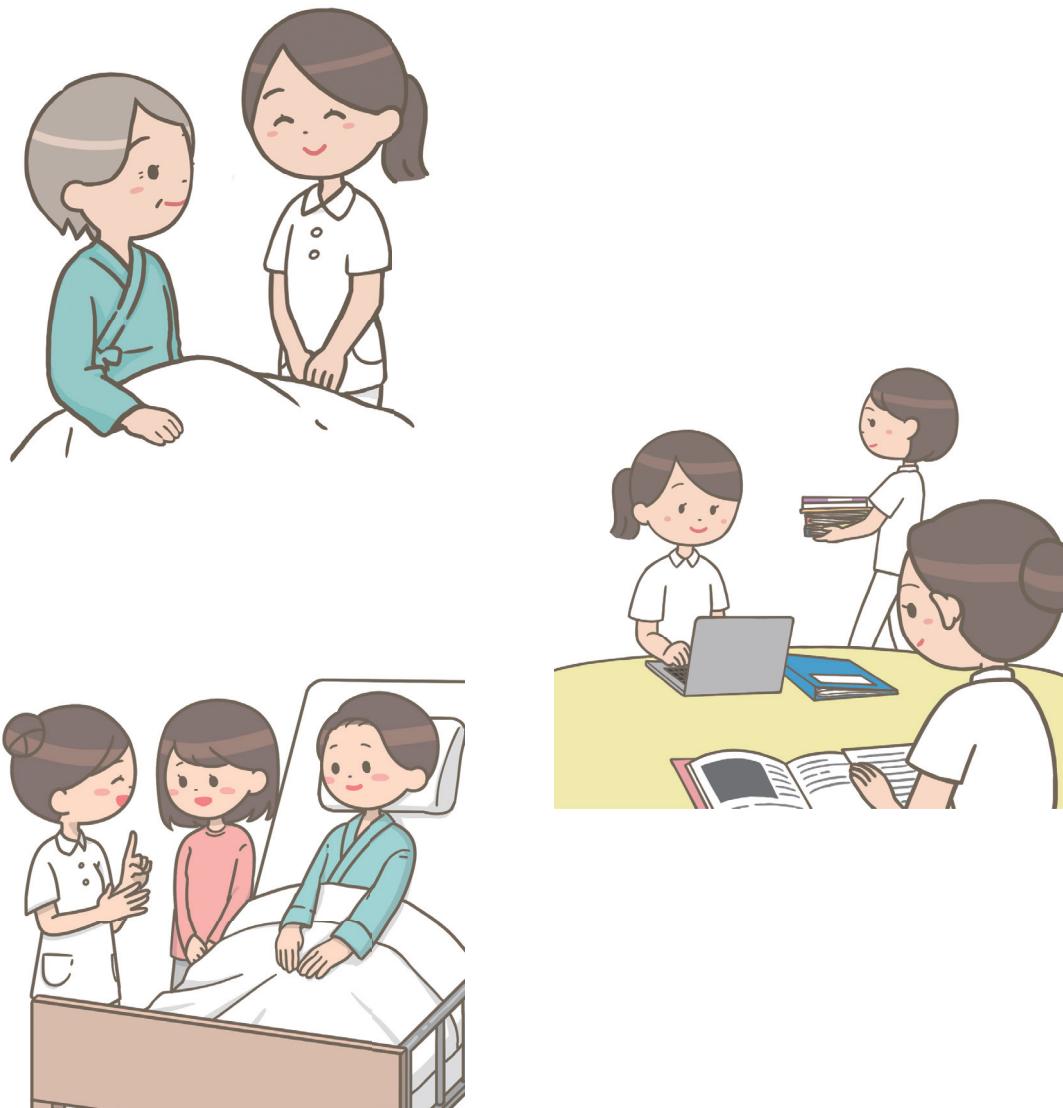
話を聞くときは、「事実」と「意見」を区別する能力を持つこと。

看護の現場で話を聞くときは、「事実」と「意見」を区別する能力を持ちましょう。看護の現場では、しばし「事実」と「意見」の両方に耳を傾けることが不可欠です。患者の安心と安全がそれに左右されることがあるからです。

「事実」と「意見」の両方を区別することで、看護師は個々の患者のニーズと経験を適切に理解し、患者のケアについて健全で十分な情報に基づいた判断を下すことができます。証拠や検査によって確認できる「事実」とは対照的に、「意見」は他人が確認できません。

しかし、「意見」は、文脈によっては、患者のケアに必要なものとなり得ます。患者の「意見」や看護師の状態の捉え方に注意を傾けることは、患者の状態を理解する上で貴重な情報であり、それにより看護師が患者を手助けをすることができるからです。

「事実」と「意見」の両方に耳を傾けるとき、看護師は心を開き、批判的思考を働かせ、患者に関連する決定を行う際に健全な判断がなされるよう努力しなければなりません。



他人に伝えるとき、「事実」と「意見」を区別することができる。

「事実」を伝える場合、提供する情報が正確で最新であることが重要です。そのためには、客観的な言葉を使い、正確な数字やデータで裏付けが必要です。

看護の分野では、定量的なデータは、状況を分析した上で明らかにされるのが一般的です。数値が高いか低いかだけでなく、その結果を支える要因や根拠を深く掘り下げることが重要です。

そうすることで、コミュニケーションにおけるあいまいさをなくし、主張を裏付ける証拠を提供することができます。個人も組織も、偏見や憶測のない言葉で話し、書くことで、「事実」に忠実であることを意識することが大切です。

また、言葉には2種類あります。数字や日付、場所などを表現する「事実語」と、気持ちや考え、思いなどを表現する「意見語」です。この2種類の言葉を区別し、両方を使い分けられるように訓練しましょう。

「事実」と「意見」の言葉の違いを理解することを学ぶことで、誤った情報や誤解を招く情報に出会ったときに、それを見分けることができるようになります。これは、患者の健康を預かっている職業だからこそ、重要なスキルです。

このような言葉の基礎を学ぶことで、看護の現場やあらゆる場面で活用できる重要なスキルを手に入れることができます。

まとめ

「事実」と「意見」を適切に区別することは、他者と効果的にコミュニケーションをとるための鍵です。「事実」か「意見」かを見分けるには、話し手の言葉遣い、ボディーランゲージ、そして付随する証拠に注意を払うことが重要です。適切な訓練をすることで、「事実」を正確に伝えつつ、個々の「意見」を誤解や齟齬が無く伝えることができるようになるのです。

